

— 日本テコンドー協会の黒帯観  
— 生涯情熱を捧げた証としての黒帯 —

2013年5月25日  
日本テコンドー協会  
会長 河 明生

10年以上も前、私・河は、天寿を全うした知人の老武道家の告別式に参列し、大いなる感銘と教訓を学びました。

老武道家の長子で喪主の謝辞によると、  
故人は、幼少の頃より、当該武道に入門し、倒れる直前まで60年以上、  
修行されたと聞き及びました。  
自宅の敷地内に常設道場を構えて50年以上も指導し、多くの弟子達を育て、  
当該武道の普及のため、その生涯を捧げた、とのことでした。

ところが、故人の一生変わることのない当該武道に対する情熱と地道な活動とは乖離した  
参列者の少なさに、いささか戸惑いの念が禁じ得えませんでした。  
私の知る武道界は、縦の関係が強く、当該武道界の上層部が一声かければ、  
多くの参列者が別れを惜しんだはずですが、どうやらそれをしなかったようで、  
不快の念がわいたことを今でも鮮明に覚えております。

しかしながら、喪主が泣きながら参列者に話した老武道家の最後の行動を聞き及び、  
参列者の多寡という形式的なことで感情的となった我が身を恥じました。  
老武道家は、意識のなくなる直前まで

自分が一生愛した武道の黒帯をしっかりと握りしめながら逝った、

というのです。

大いなる感銘を受けました。

やはり故人は、立派な武道家であったと確信したのです。

老武道家の黒帯は、形見として遺族に大切に保管されます。  
家族による法事や門弟による偲ぶ会等では、  
故人の人生を語る上で欠かせない、

生涯情熱を捧げた証としての黒帯

として集った人々に老武道家の生き様を想起させることでしょう。

「ああ、我が日本テコンドー協会も、かくありがたいものだ。

人は誰しも最後の時を迎える。

数十年後、門人達が天寿を全うする時に、老武道家同様、

日本テコンドー協会の黒帯をしっかりと握りしめてくれるような誇れる武道、

小なりと言えども胸を張って誇れる立派な武道団体に成長させなければならない」と  
教訓を学びました。

日本テコンドー協会の黒帯は、あなたの人生の足跡をあらわす立派な証です。  
数ある武道・武道団体の中から、  
日本跆拳道および日本テコンドー協会を選んでくれた皆さんが、  
地道な努力と実力で黒帯を取得したという「自分の歴史」の「武道の章」に、  
誇りと自信を持って頂きたいと希望しております。